

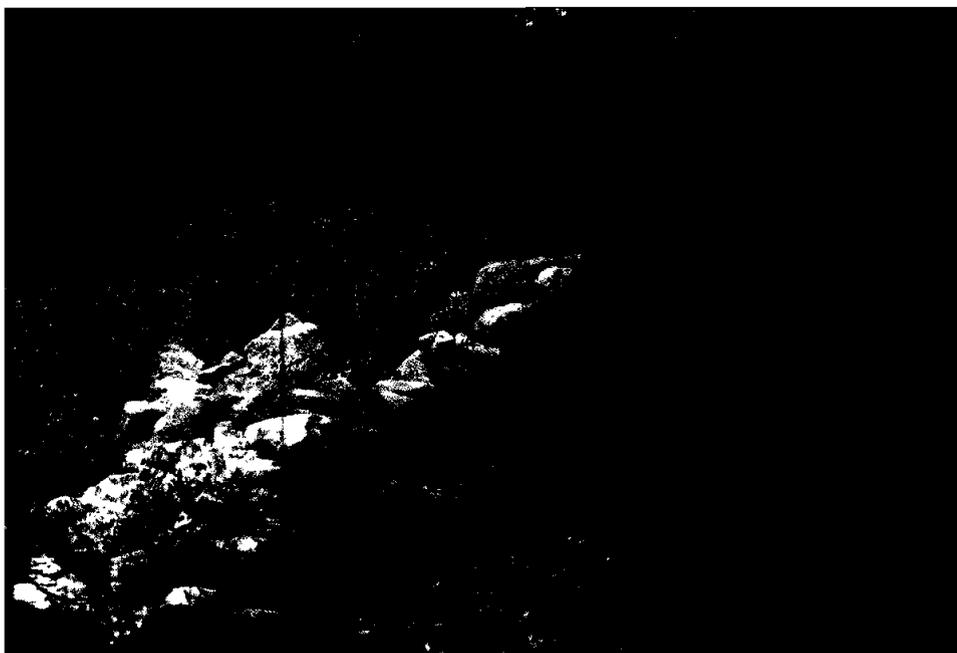
シシ垣を掘り起こそう！

—大学と地域の連携—

高橋 春成*

Takahashi Shunjo

いま私たちは、滋賀県の比良山地山麓に残されたシシ垣の遺構を掘り起こしている。この取り組みは、‘大学と地域が連携してシシ垣を掘り起こす’というスタイルをとっている。どうということかという、私とゼミ生や院生（合わせて40人くらい）が、地域のみなさんと一緒にシシ垣を実測・地図化し、また関連する古文書や記録類などを集めて、それぞれの地区にあるシシ垣ごとの記録を作成し、シシ垣の価値や保存・活用などについて考えようというのである。当地のシシ垣は、わが国のシシ垣全般がそうであるように、存在が記録されているものでも実測調査がほとんどなされていない。さらに、未確認であったり記録されていないシシ垣もまだ残っている。このようなシシ垣に陽を当てようというのがこの取り組みである。



シシ垣の遺構

これまで、豪族や貴族、武士にまつわる古墳や城郭といった遺構類が脚光を浴びてきたのに比べ、農民の汗の結晶であるシシ垣の遺構は、全国的な分布のひろがりや長さ数十kmという大規模なもの存在にもかかわらず、注目度が低かった。しかし、シシ垣の価値は高い。そこには往時の農民の生活が深く刻まれており、地域の財産として極めて貴重なものと考えられるからである。

いま取り組んでいる活動を通じて、まずは地域のみなさんがシシ垣の価値を認識し、地域の財産としてシシ垣が大切にされることを願う。そして、取り組みの中で整理できたものが、郷土学習、総合学習、環境学習といった地域の学校教育の教材としても役立てば幸いである。それぞれの地域のシシ垣の価値は、それぞれの地域で認識されることが基本的に大切なことである。参加した学生たちも、地域のみなさんとの会話や共同作業の中で多くを学ぶことができる。そして、それぞれの故郷やこれからの就職先などで、きっとシシ垣に注目してくれよう。

それぞれの地域に残るシシ垣の掘り起こしは、それぞれの地域のみなさんが行い、その中でシシ垣の価値が認識されていくことが、基本的に大切であると思う。大学の役割は、そのような契機をつくったり、その橋渡しをすることであろう。そのような中で共に行動し、学ぶことができる。

滋賀県の比良山地山麓での取り組みは、まだはじまったばかりである。今後、さらに活動を展開していきたいと思う。また、全国的にもシシ垣の掘り起こしがすすむことを願っている。そのためのシシ垣ネットワークとホームページ (<http://homepage3.nifty.com/takahasizemi/sisigaki/sisimein.htm>) を立ち上げてみた。興味関心がある方は、是非アクセスをしていただきたい。

なお、奈良大学助成で行なった今回の研究成果は次にまとめ発表した。具体的な内容はこれらにゆずる。

- (1) 高橋春成 (2003) : シシ垣探検 (前編) - 大学と地域の連携のもとに - 地理48 (3) ,73~79.
- (2) 高橋春成 (2003) : シシ垣探検 (後編) - 大学と地域の連携のもとに - 地理48 (4) ,102~107.